

一般社団法人日本脊椎脊髄病学会

平成 25 年度第 1 回学術集会プログラム検討委員会議事録

開催日時：平成 25 年 4 月 27 日（木） 7：00-7：45AM

開催場所：ラグナガーデンホテル 明海の間

出席者（五十音順）

川上 守（担当理事）、戸山 芳昭（委員長）、吉田 宗人（副委員長）、田口 敏彦（委員）、小森 博達、紺野 慎一、中村 博亮、持田 譲治（業務執行理事）

欠席者 永田 見生、徳橋 泰明、野原 裕

報告・審議事項

1. 前回の審議事項の確認が資料に基づいておこなわれた。

2. 報告事項

1) 第 42 回日本脊椎脊髄病学会学術集会の報告

シンポジウム 4 題、主題 10 題、**Debate** 4 題おこない、初日の参加者が 1700 から 1800 人であったこと、十分に聴衆が入りきれない狭い会場があったこと、順調に二日間終了したことなどが、戸山会長から報告された。

2) 第 43 回日本脊椎脊髄病学会学術集会プログラムの準備状況

吉田次期学術集会会長から、華岡青洲の唱えた「内外合一活物窮理」の「活物窮理」をテーマに、主題候補を 13 題あげ募集し、その内 10 題を選ぶこと、**Debate** を 4 題行い、今後の教訓として残す合併症の経験のテーマや新たにビデオ **session** を行うことが報告された。なお、国際委員会と協議して、**English session** を 2 日間の午前にもうけたいことも述べられた。演題募集期間は 8 月 29 日-10 月 29 日とした。

ウェスチン都ホテル京都で学会前日に理事会、評議員会、会長招宴を行い、学会期間中の理事会、各種委員会は国際会議場の会議室を用いるとした。

学会の財務として、予算書を財務委員会に提出し、検討することとなった。来年度の予算は 8000-9000 万である。

教育研修単位のための IC カードの貸し出しが可能かどうかなど、受付の混雑をさける方法を検討することとなった。今回 42 回本学会を担当した慶応義塾大学の石井先生、中村先生からも意見を聞くこととなった。

### 3) 第 44 回日本脊椎脊髄病学会学術集会プログラムの準備状況

田口次次期学術集会会長から、第 42 回の本学会が非常に参考になったと述べられた。担当コンベンションはコングレで、会期は 4 月 25-27 日、福岡国際会議場でおこなうことが確認された。

## 3. 審議事項

### 1) 第 43 回、第 44 回学術集会での学会本体主導のプログラム企画の検討

永田先生の第 41 回の本学会から、低侵襲脊椎外科、成人側弯、骨粗鬆症椎体骨折などがつながっているテーマであることが示された。

本学会指導のプログラムを学術集会に取り入れていくことが確認され、44 回学術集会からどういうテーマを採択していくか、メール審議を行うこととなった。

戸山委員長から「健康日本 21」で、今後 10 年間のプロジェクトとして「足腰に痛みのある高齢者の割合の減少」が取り上げられていることが報告された。この学会でも、このテーマに則して、対策などを検討するプログラムを取り上げてもらいたいことが述べられた。また、本学会指導の介入研究やコホート研究の結果などを本学会の広報で一般に流布ことの必要性が示された。

第 43 回のプログラムに「痛み」がテーマとして、示されていないので、第 44 回のテーマにぜひ入れるようにとの希望があった。

### 2) 学術集会の抄録集の超課金

今回抄録集の出版費用が採用率の増加に伴い超過した。本学会と今回の学術集会開催校の折半で、支払うこととした理事会決定が報告された。

### 3) その他

1. 脳神経外科との学会誌、交流などを今後どうしていかうが今後の課題として示された。
2. 第43回学術集会吉田会長から、脳外科との関係に関連して、共通に協議する場をもうけるかどうか提示されたが、現時点では、あえて垣根をつくる必要がないことが確認された。
3. 次回委員会から、戸山委員長が委員に、吉田副委員長が委員長になることが決定した。
4. 次回委員会開催予定  
7月11日あるいは12日 第46回日本整形外科学会・骨軟部腫瘍学術集会の開催期間中に東京で開催することとなった。